

動き出した現代龍馬学会

発表者、テーマも決定

“自由・平等”の旗印掲げて

会長 永国 淳哉



海援隊の帆船が、広い海原にくり出し
たように、現代龍馬学会も大きな夢をい
っぱい描きながら静かに、力強く動きは
じめた。

初日の発表者とテーマは、下の欄の通
りとなつてゐる。

近代日本を築く礎の理念として、“自由
と平等”の旗印を高く掲げながら、龍馬
を語り合い、深く知りたいと思います。

発表者を簡単に紹介しておきます。

私(永国)の「龍馬の歌」は、龍馬の短歌
などの調査から、その現代的な意義を発
表。漢詩が見られない龍馬に目を向け、
従来の「愚童説」に対し、土佐南学との関
連の問題から、不登校問題まで話したい
と意気込んでいます。

「横笛のことなど」を発表する渋谷雅
之先生は、徳島大学の元副学長。薬学博
士として幕末の写真から興味を持ち、今
ではすっかり”龍馬研究家”となつてしま
いました。最近は、龍馬関係の帆船研究
にも熱が入っています。

「夢分析」を話してくれる渡辺瑠
海さんは、”龍馬”の著書も多いが、地元の
高知ではTVキャスターとして知られ人
気も高い方です。「龍馬の子孫」を報告
する龍馬記念館の前田由紀枝学芸員と
並び、二人の若い女性の発表者が出了こ
とは嬉しいことです。発表とともに二日
目の分科討論会が楽しみです。

「龍馬の歩いた道」の大洲市の村上恒
夫氏は、”脱藩の道の開拓者”ともいわれ
る人物です。村上氏が出るまでは”脱藩
の道”観光ルートは全く違っていました。
歴史的事実とは何かを、生き証人として
体験して教えてくれるでしょう。

京都国立博物館学芸課主任研究官の
宮川禎一氏は「書簡にみる龍馬の心」とし
て発表します。五年前に著書「龍馬を読
む愉しさ」を発行して、龍馬の脱藩が坂本
(権平)家の後継ぎと人娘・春猪の養子問
題と関連していた可能性を「書簡」で示し、
高知でも研究報告してくれました。

「ジョン万の夢」を発表する北代淳二
氏は、数年前まではニューヨークに住み、
私は河田小龍著「漂異紀略」を翻訳し、
ジョン万の米国「古里」ニユーベッドフォード
で出版しました。また五月には日野原重
明博士など一緒に、同地に向かい、日本中
から頂戴した1億円以上の寄付で修復
する”ジョン万ハウス”的式典に、運営委員
として出席します。かつてのTBSのアン
カーマンで、ワシントン支局長や世界中を
取材してきた方です。

昨年、当学会を立ち上げる際、学会の
趣意書として、現状を次のように訴えま
した。

「国民不在。政争に明け暮れる政治
家たち。お金に主導権を握られたしまつ
た経済界、不可解な事件が不安を募ら
せる一般社会。そんな殺伐、混迷の”平成
世相”を「幕末」に例える声があります。

『龍馬に日本の現状を見せて意見を聞
きたい』『平成の龍馬よ、いざここに』。平
成の龍馬を待ち望む声が巷に溢れてい
ます。』

こうした現代の理想のリーダーとして、
主人公を描き、来年はNHK大河ドラマ
「龍馬伝」で毎週ゴールデンタイムに魅力
的な龍馬役が出演して活躍することに
なっています。

繰り返しますが、この学会は「単に歴
史研究というのではなく、研究を通じて
龍馬を現代にどう位置づけていけばいい
かを広く考察したい」というあらゆる分
野に開かれた会です。年令も関係あり
ません。

皆さん、学会に入り、龍馬を語ろう

そして”龍馬を語ろう”

発表者のテーマ 4月18日(土)	
永国 淳哉	「龍馬研究・龍馬の歌」
渋谷 雅之	「横笛のことなど・北海交易の夢」
渡辺 瑠海	「夢分析に見る“幕末”」
前田 由紀枝	「家族の肖像—龍馬の子孫たち」
村上 恒夫	「龍馬の歩いた道」
宮川 禎一	「書簡にみる龍馬の心」
北代 淳二	「ジョン万の夢・龍馬の夢」
4月19日(日)	A会場テーマ 「夢」 B会場テーマ 「出あい」